



2024 年度、教職員による自己点検・自己評価の総合平均点は、4.0 で昨年より 0.1pt 上昇し、過去最高となった。

本年度の評価では、いくつかの重要な項目において低下が見られた。特に、「教育理念・目的の意義と周知」「教育目標の到達レベル」「教育課程・シラバスの妥当性」「国家試験対策の妥当性」などが前年と比較して低下しており、カリキュラム全体の再検討が求められる状況となっている。一方で、「実習環境・指導体制の妥当性」「卒業後の学生評価」「学校整備・教材の整備」「学校広報活動の妥当性」などは評価が向上し、一定の成果を上げている点も確認された。以下では、各項目の評価の変化とその要因を分析し、今後の展望について考察する。

【I. 教育理念・教育目的・目標】は 3.9 と前年の 4.2 より 0.3pt 低下した。<I-1 教育理念・教育目的の意義と周知>についての評価は 3.9 となり、前年の 4.0 から 0.1pt 低下した。この要因として、教育理念の意義が教職員間で十分に共有されず、授業内容への反映が十分でないことが考えられる。そのため、教育理念がどのように実現されているかを改めて確認、教職員間で共有し、学生に伝わりやすい形で示す工夫が求められる。また、<I-2 教育目標の到達レベル>についての評価は 3.9 となり、前年の 4.3 から 0.4pt 低下した。この低下の要因として、教育目標が学生の卒業時に求められる資質を十分に認識されていないことや、医療現場における看護の質を保証するまでの妥当性について、教職員や学生の理解が十分に浸透していないことが考えられる。また、教育目標と授業・実習との関連性が明確でない部分があり、その意義が十分に伝わっていない可能性もある。今後は、教育目標と実践とのつながりをより明確にし、教職員や学生がその重要性を共有できるような取り組みを進めていくことが求められる。

【II. 教育課程・教育活動】は 3.8 となり、前年同様であった。<II-1 教育課程・シラバスの妥当性>については、3.6 となり、前年の 4.1 から 0.5pt 低下した。時代の変化に伴う医療・看護の最新動向を十分に反映できていないことや、シラバスの目標と実際の講義内容の整合性が十分でないことが考えられる。また、シラバスに示された講義内容と担当講師の専門性や指導方法が、教育目標の達成に最適なものとなっているかについても、再検討の余地がある。今後は、教育課程全体の見直しを行い、最新の知見や実践に基づいたカリキュラムの更新を進めるとともに、シラバスの内容と講義の実際がより一致するような工夫を検討していくことが求められる。そして今後は、カリキュラム全体の整合性をさらに強化し、教育効果の向上を図る必要がある。一方で上昇した項目は、<II-4. 実習環境・指導体制の妥当性>についての評価は今年度 3.8 となり、前年の 3.5 から 0.3pt 上昇した。この上昇の要因として、実習目標に沿った適切な実習場所の選定が進んだことや、学習環境・指導・協力体制の整備が強化されたことが考えられる。また、実習指導者と教員の役割分担を明確にし、協働体制を強化したことが、実習の質の向上につながった可能性がある。

【III. 学生活動支援】は 4.1 と前年の 4.0 から 0.1pt 上昇した。<III-1. 心身の健康管理>が 4.2 と前年の 4.1 から 0.1pt 上昇したことは、心身の健康管理体制が一定の成果を上げたことを示している。しかし、より充実したサポートを提供するためには、一人ひとりの状況に応じた細やかな支援の強化や、日常的に健康管理の意識を維持する仕組みの導入、さらには教職員が学生の健康状態に適切に気づき必要な支援につなげる体制の確立が課題となっており、今後も学生が安心して学習できる環境を整えながら、身体面・精神面の健康を維持し、より良い学習成果を得られるような支援を継続していくことが重要である。<III-3. 国家試験対策の妥当性>は 4.1 と前年の 4.0 から 0.1pt 低下した。国家試験の結果は、教育課程の有効性や学習支援の充実度を測る重要な指標であるため、今後は、より効率的な対策を講じて、結果向上に貢献していくことが求められる。

な指標となる。今年度は 97.4% (76 名中)、(全国平均新卒者 95.9%)。今後は、国家試験の成績データを詳細に分析し、試験対策と教育課程の改善を継続的に行うことで、より高い合格率を目指すことが重要である。

＜Ⅲ-4. 卒業後の学生評価＞は、4.2 と前年の 3.9 から 0.3pt 上昇した。令和 5 年度卒業生における就職後の継続率は、97.1% であった。これは、本校の実践に即した学びと、きめ細かいサポートにより、卒後も安心して働き続けることができている。今後は、卒業生とのネットワークをさらに強化し、現場の声をカリキュラム改善に反映させることでより実践的な教育を提供することが求められる。

【Ⅳ、学校経営・管理】は 4.1 と昨年の 3.8 から 0.3pt 上昇した。この上昇は、全ての項目についてみられており、特に上昇が大きい項目は、＜Ⅳ-2 学校設備・教材の整備＞は 3.9 と昨年の 3.5 から 0.4pt 上昇し、教育環境の充実が一定の成果を上げたことが示された。教育目標の達成に必要な設備や教材の整備が進み、電子カルテの導入や ICT 環境の導入により、より実践的で効果的な学習が可能になった。また、教室・自習スペースの活用が効果的に進められたことも評価につながった。さらに、校舎の利用時間の延長や休憩スペースの充実など、学習の利便性が向上したことも影響している。今後は、最新の教材や設備の継続的な導入に加え、学生の意見を反映した環境整備や、設備の効果的な活用・管理を進めることが求められる。引き続き、教育の質を高めるための環境整備を継続し、学生が快適に学べる環境づくりを進めていくことが重要である。＜Ⅳ-4 学校広報活動の妥当性＞が 4.2 と前年の 3.9 から 0.3pt 上昇し、広報の質の向上が一定の成果を上げたと考えられる。特に、SNS や Web サイト、動画コンテンツを活用した情報発信の強化により、受験生や保護者へのアプローチが広がったことが要因の一つとして挙げられる。また、オープンキャンパスや説明会の工夫、高校の進路指導担当者との連携強化により、学校の特色をより効果的に伝える取り組みが進められた。さらに、学校案内パンフレット・ホームページの更新頻度を高め、視認性を向上させたことで、受験生が必要な情報にアクセスしやすくなり、より分かりやすい広報が実現された。

【V. 教職員の育成】の評価は 3.8 となり、昨年の 3.6 から 0.3pt 上昇した。特に、＜V-1. 教職員研修の実施体制＞は 3.6 と、昨年より 0.3pt 上昇しており、研修の充実が一定の成果を上げたことが示されている。FD 担当を中心に教育上の課題をテーマとした職場内研修を実施し、アンケート結果でも高評価を得るなど、満足度の高い研修となった。また、今年は教員全員が看護教育学会に参加し、教育に対する意識の統一が図られたことも評価につながった。また、授業や演習の際に各領域間で協力し合い、意見交換を行うことで、教員の資質向上につながっている。今後、教育力のさらなる向上を図るため、研修の充実を継続するとともに、教員間の情報共有をより円滑に進める仕組みを検討していく必要がある。

今年度の課題を踏まえ、学生が充実した学校生活を送ることができますよう教職員一同努めてまいります。今後とも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。